

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	ラディアントステップ		公表日 令和 8年 3月 1日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	<input type="radio"/>		必要ではない物品を片付ける等、備品の整理・整頓を行い、できる限り床面積を広く取っています。	利用定員10名に対して適切な広さではあるが、死角になりやすい場所には見守る職員を配置し、注意を払っています。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	<input type="radio"/>		配置基準を満たしています。常時4～5名で支援にあたり、外出時はなるべく5名で支援を行っています。	特に外出時は綿密に計画を立てペアを決めて支援にあたり、また臨機応変に対応できるよう事前の話し合いを大切にしています。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	<input type="radio"/>		時間の構造化、空間の構造化、手続きの構造化等、こどもが自ら考え安心して行動できるよう配慮しています。	建物の構造上、完全なバリアフリー化は難しいが、送迎車への乗り降りの際等は安全面に十分注意を払い、気配り、目配り、心配りを怠らないよう引き続き心掛けます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	<input type="radio"/>		感染症対策の為に清潔な環境を整える等、保健的環境の整備に努めています。活動内容に応じた備品の配置換え等を行っています。	こどもの健康と安全を守る為に全職員が心を配り、静と動それぞれの活動に合わせた空間作りを今後も心掛けます。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	<input type="radio"/>		通常、専門的支援を行う学習室をこどもが気持ちよく落ち着かせる場所として使用しています。	こどもの心身の状態に応じて支援できる環境・体制整備に引き続き努めます。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	<input type="radio"/>		個別支援計画書を見直し、評価、改善、再計画、実施を行っています。	半年に一回もしくはその都度、見直しのタイミングでPDCAサイクルに沿った利用計画の見直しを全職員の意見を反映して行っています。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		保護者評価アンケートの内容を職員間で共有し、業務改善に役立てています。	保護者アンケートの結果から、保護者の意向等を真摯に受け止め、改善に努めます。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		事業所における評価アンケートを実施し、業務改善に役立てています。	毎年、事業所における評価アンケートを実施しています。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		<input type="radio"/>	社内において他施設の評価、アドバイスをしています。	第三者による評価は行っていません。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	<input type="radio"/>		毎月社内研修を行っています。また、社外研修にも積極的に参加しています。	社内・社外研修等を通して職員の学びの場を設けて研鑽を積み上げ、更なるスキルアップに努めています。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	<input type="radio"/>		「健康・生活」「運動・感覚」「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」の5領域を相互に関連付けた支援プログラムを作成しています。	5療育を相互に関連付けた療育を設定し、繰り返しの活動の中にも変化を持たせる等、創意工夫を加えています。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	<input type="radio"/>		契約時のアセスメントを丁寧に行い、計画を作成しています。	アセスメントの取り直しを小6・中3・高2時に行い、自社の併用施設間で共有しています。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	<input type="radio"/>		児童発達支援管理責任者が中心となり、こどもの最善の利益の為に職員間で話し合いを重ねています。	こどもの状況、背景、ニーズに応じた支援の在り方を引き続き職員間で検討してしていきます。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	<input type="radio"/>		児童発達支援管理責任者が中心となり職員間で支援の在り方について共通認識を持ち、支援を行えるよう話し合いを大切にしています。	今後も職員間で深く掘り下げた話し合いを重ねて支援を行います。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	<input type="radio"/>		フォーマル、インフォーマル双方のアセスメントを使用し、こどもの適応行動の状況を確認しています。	面談の際のアセスメントは丁寧な聞き取りを心掛けています。実際の支援の場におけるアセスメントの練度を高める為に、改善を重ねていきます。

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		「放課後等デイサービスの提供すべき支援」のねらい及び支援内容を踏まえ、こどもの支援に必要な項目を設定した上で支援内容を設定しています。	充実した支援の為に、昨年度より導入された支援プログラムについて児童発達支援管理責任者会議等において協議を重ねています。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		5領域を相互に関連付けた療育内容を設定し、活動プログラムの立案を全職員で話し合っています	翌月の療育の計画を全職員で行っています。今年度も田植え、野菜の苗植え・収穫等、農作業に力を入れました。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		同じ療育であっても内容が重ならないように、繰り返しの活動の中にも取り組み方に变化を持たせる等、創意工夫を行っています。	運動療育や机上の作業等、5領域に沿った療育内容を設定し、その他、外出や自然体験、食育等をバランスよく組んでいます。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		個別活動と集団活動を上手く組み合わせ支援を行っています。	療育活動は基本的には集団活動ではあるが、取り組みの内容や難易度は個人に合わせて設定し、集団療育の中においても個別の目標を達成できるように計画を立てています。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		毎日療育ミーティングを行っています。	療育活動の進め方については、事前にリーダーを中心に計画を確認し、各支援員が内容と役割を理解して取り組んでいます。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		送迎終了後に一日の振り返りを行っています。	送迎後の戻り時間にもよるが、できる限りの振り返りを緊急性のあるものから行い、残りは翌日のミーティングの中で前日の振り返りを行うようにしています。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		連絡帳と療育活動日誌への記録を行っています。	連絡帳には取り組みの内容、こどもの様子等を出来るだけ詳しく記入しています。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的にモニタリングを行い、計画に見直しを行っています。	支援相談員とのモニタリングにおいては、計画の内容、改善点や問題点、通所の様子等についての確に伝えられるよう念入りに準備しています。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		複数組み合わせを行うことが求められる「4つの基本活動」を踏まえた、こどもの成長と自立を目指した支援を行っています。	放課後等デイサービスガイドラインの4つの基本活動を常に意識し、総合的な支援を行えるよう活動計画を作成し、支援に繋がっています。
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		一つのテーマに沿った療育内容を設定しているが、その中において自己決定できる機会を設けています。	こどもの言動や行動に目や耳を傾け、こども自身の思いや思考に寄り添うように心掛けています。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児童発達支援管理責任者が参画しています。	現状だけでなく今後の予測される状態像も踏まえた支援に繋がるよう連携を深めてまいります。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		利用児が他社の併用事業所を利用しているケースにおいて、ご家族、教員、併用事業所の児発管、相談支援員を交えた担当者会を当事業所にて開催したことがあります。	関係機関との情報共有は行っているが、医療機関との連携については他と比べ薄いと感じています。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		学校の年間計画・行事予定等を把握し、こどもの下校時刻の確認等の情報共有を行っています。	送迎時(引き渡し時)の要望を学校側に申し入れて情報共有を行い、より良い方策を講じたことがあります。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		スマイルブック(大垣市発行)や就学前の記録の提出をお願いしています。	スマイルブックや各市町村が実施している記録を閲覧させていただき、これまでに発達支援事業所において受けてこられた支援内容について把握を行っています。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		卒業後の移行先の要望に応じ開催された引継会に参加する等して情報共有を行っています。	引継会においては次の支援へ繋がるよう詳細な資料を用意して臨みました。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		ひまわり学園主催の研修に可能な限り参加しています。	参加した職員が、その研修等の内容を全職員に共有し、更なるスキルアップを図っています。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		県立高校の動物介在活動(アニマルセラピー)では高校生達が主体となり、交流できる場を提供いただいています。	子ども達がリラックスして参加できるようご配慮いただいています。

	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	○		参加依頼がある場合には、積極的に参加しています。	今後も縦横連携・切れ目の無い支援の為に尽力いたします。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	○		自宅への送迎の際に、こどもの姿を伝え合い共通理解を図っています。	その日の活動内容だけではなく、予測される課題や子育ての不安、取り組みへの不安等に寄り添い、ご家族の思いを反映させながら現状に合った支援を行っています。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		不登校、基本的な生活習慣に関わる事案に対して対応を助言し、ご家庭における取り組みの支援を行っています。	ご家族からのご質問に対して地域の福祉サービスや情報等を適宜発信できるように努めております。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約の際、丁寧に説明を行っています。	内容に変更等生じた際にはその都度訂正しています。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		児童発達支援管理責任者が普段から送迎時等においてご家族の思いに丁寧に耳を傾け、意向を確認する機会を設けています。	こどもや保護者のニーズに応じた支援の在り方を念頭において引き続き意向を確認する機会を大切にします。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		児童発達支援管理責任者が丁寧かつ詳細に説明しています。	送迎時に放課後等デイサービス計画を示しながら説明しています。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		相談しやすい雰囲気づくりを心掛け、ご家族に寄り添いながら助言を行っています。	職員間で情報共有・共通理解しながら適切な助言等の支援が行えるようスキルアップに努め、保護者の支援に繋がります。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○	年3回以上を目標に保護者・きょうだい参加型の催しを今後も開催いたします。	今年度は養老の滝への遠足を企画しましたが、インフルエンザA型の流行の時期と重なり感染症予防の観点から中止となりました。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		こどもや保護者の話に丁寧に耳を傾け、思いを真摯に受け止めます。頂いたご意見や思いを全職員で共有し、迅速に対応します。	併用施設との連携を密にし情報共有を行っています。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		毎月発行の新聞・予定表の配布、ブログを更新し、発信しています。	引き続き積極的に発信してまいります。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報の取り扱いについて全職員に周知し、個人情報を守ることを徹底しています。	秘密保持につきましては雇用条件の中に含まれております。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		利用児にも、保護者にもわかりやすい伝達を心掛けています。	端的に分かりやすくお伝えできるよう心掛け、必要に応じてメモ等お渡ししています。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		地域に出向き、農作業を通して交流を図っています。	地域において農業に従事されている方の畑の手伝いや収穫体験をさせていただく等、定期的に行っています。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		全ての対応マニュアルを策定しています。	各種マニュアル等策定しておりますが保護者への周知は十分ではないので今後の在り方を検討いたします。
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		火災、水害、通報訓練を年2回実施しています。	地域の避難場所やハザードマップ等確認し、実践的な訓練を行っています。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		アセスメント時に服薬や予防接種、てんかん発作等について確認を行っています。	再アセスメント時にその後の変化がないか等確認を行っています。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		アセスメント時にアレルギーについて確認を行っています。	現在対象となる利用児はいません。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		昨年度より安全計画委員会が発足し、療育器具等の点検を行う等、安全計画の策定が整えられました。	職員の意見を取りまとめ安全委員会において安全計画の見直しを行い、次年度へ繋げています。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		契約時の重要事項説明書を読み上げる際、災害関連の記述がある為、地域の避難場所等を口頭でお伝えしています。	現状では契約時のみの説明である為、今後に向けて周知の方法を検討します。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハット・事故報告書を作成し共有しています。	ヒヤリハット並びに事故報告書に該当する事案が起きた場合には職員間で共有し、再発防止の方策を検討しています。また、作成した報告書を管理職に提出し、助言を仰いでいます。

53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		全職員対象の虐待防止研修会を毎年実施しています。	研修会のみならず日々の振り返り、話し合い等を大切にして虐待防止に努めます。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		現在、対象となる利用児はいません。	現在対象となる利用児はいないが、今後やむを得ず身体拘束が必要となる場合は決められた手順を踏み、更に日々の様子を適切に保護者に伝えられるようにしていきます。